

# いごいのみぎわ

## 天路歷程 ジョン・パニヤン

### 第19話

2022年3月27日～4月2日 各家庭でのディボーション用テキスト

かくて彼が進んで行くと、アポルオンは彼を出迎えた。さて、その怪物は見るからにぞっとするほどであった。彼は魚のようにうろこでおおわれ（それが彼の誇りであった）、龍のような翼と熊のような足とを持ち、腹からは火と煙を吐き、口はししのようなであった。彼が基督者の所にやって来ると、軽蔑の顔つきで彼を眺め、次のように尋ね始めた。

**アポルオン** どこから来た。してどこへ行くのじや。

**基督者** 私はあらゆる悪の場所である滅亡の都から参りました者で、シオンの山へ行こうとしております。

**アポルオン** これでお前がわしの家来の一人だということが分かった。あの国は全部おれの物で、おれはその王であり神であるのじゃからな。一体どうしたというのじゃ、お前の王から逃げ出したとは。お前がもっとおれに尽すことをおれが望んでいなければ、今一撃の下に叩きのめしてくれるのじゃが。

**基督者** なるほど私はあなたの領土に生まれました。しかし、あなたに仕えることはつらいし、あなたの給料では暮しが立たないのです。「罪の支払う報酬は死である」【**ロマ 6:23**】というわけですからね。それで私が成年に達しましたとき、他の思慮深い人がするように、もっとよい身の振り方はないものかと気を配ったのです。

**アポルオン** そうやすやすと家来を手放す王はいないぞ。おれだってまだお前を手放してはおらんのだ。だが仕事と給料の不平を言うからには、安心して帰れ、おれの国で与えられる限り与えるようここで約束しておこう。

**基督者** ですが、私はほかのお方、諸王の王に一身をゆだねました。今さらあなたのもとに帰ったら男が立ちましようか。

**アポルオン** お前は「小悪を大悪に替え」のことわざどおりやったわけじゃな。だが彼のしもべだと名乗った連中がやがて彼をすっぽかしておれのもとに戻って来るのが常じゃ。お前もそうすれば万事申し分なしじゃて。

**基督者** 私は彼に信仰を捧げて忠誠を誓いました。今さら引き返したら、裏切者として絞罪にならずにすみましようか。

**アポルオン** そのとおりのことをおれにしても、おれは喜んで万事大目に見てやる



アポルオン 基督者を襲う

のじゃ、今から引き返して戻って来るなら。

**基督者** 私があなたに約束したのは、まだ未成年でした。その上私が今その旗印の下に立っている王は、私の罪を許して下さるばかりか、私があなたに従ってしたことと許して下さることができると思うのです。それにまた（ああ、人殺しのアポロンよ）、実を言うとあの方の仕事、給料、しもべたち、政治、従者、国はお前などより好きなのだ。だからもうこれ以上説きつけることはよしてくれ。私はあの方のしもべだ。そしてあの方に従うのだ。

**アポロン** これから行く先々で恐らくどんなものに出会うか、冷静になったらもう一度考えてみるがよい。お前も知っていようが、彼のしもべどもの終りはたいがい悪いぞ。それというのも、おれとおれのやり方に背くからじゃ。彼らのうち恥ずべき死に処せられた者がどんなに多かったことか。その上、お前は彼に仕える方がおれに仕えるよりましだと考えているが、彼は今まで一度だって自分のいる所から出て来て、彼に仕える者をおれたちの手から救ったためしはないのじゃ。だがこのおれときたら、世間がみな承知のとおり、おれに忠実な者が囚われても、力づくやごまかしで彼とその家来とから救ってやったことが何度あるかしれん。そのようにお前も救ってやるぞ。

**基督者** あの方が現在彼らを救うことを差し控えているのは、彼らが最後まであの方に固く結びついているかどうか、その愛を試すためだ。また彼らの最後が悪いというが、彼らにしてみれば最も光栄ある最後なのだ。今すぐの救いなんぞ大して当てにはしていない。彼らはその栄光を待っているからだ。王がご自身とみ使いたちとの栄光をもって来られるときには、彼らもそれを受けるのだ。

**アポロン** お前は彼に仕えてすでに不忠実であった。それでどうして彼から給料をもらおうと思うのじゃ。

**基督者** アポロンめ、私のどこがあの方に対して不忠実なのだ。

**アポロン** お前は出発早々落胆の沼で危うく息が詰まりそうになったとき、元気を失ったではないか。お前は、重荷を下ろそうとして邪道に踏み込んだではないか、王がそれを取り去るまで待つべきだったのに。お前は罪深くも居眠りして大切な物をなくしたではないか。お前はししを見たときには今にも引き返そうという気になったではないか。また道中のことや見聞きしたことを話したとき、自分の言ったり行なったりしたことに心の中で空しい誇りを求めていたではないか。

**基督者** みんなそのとおりだ。お前が言い落としたことはまだ幾らもある。だが、私が仕えあがめる王は慈悲深くてすぐお許しになる。それにこれらの弱点はお前の国で私にとっついたのだ。そこで吸い込んだのだから。そのために私はうめき悔やんで、王からお許しを得たのだ。

その時アポロンはひどく怒りだして言った、おれはこの王の敵じゃ。おれはあいつの人格と律法と人民を憎む。おれはお前の邪魔をしてやろうとわざわざ出て来たのじゃ。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい